夏休み 子供特集

いつまでも忘れない 好奇心いっぱいの夏休みにしよう!

子供のための推薦図書・プログラム

いよいよ、子供たち待望の夏休みがもうすぐ始まる。この長い休みをどう有効に使うか、お母さんたちも頭が痛いところだが、今年はぜひ、子供たちの想像力を育む童話や昔話に触れてみてはいかがだろう。
そこで、この10月に彩の国さいたま芸術劇場で公演が予定されている、「日本昔ばなしのダンス」を振り付けする近藤良平さんと伊藤千枝さんのお二人に、お勧めの図書を選んでもらった。
ユニークで楽しい作風で知られる二人なだけに、子供心にフィットするセレクションは納得の内容。
併せて、夏休み期間中に行われる子供たちのための様々なプログラムもご紹介。親子そろって、楽しい思い出をつくろう。

近藤良平（こんどうりょうへい）
ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。男性のみのダンスカンパニー「コンドルズ」主宰。人形劇や生演奏を交え、学ランを着て踊る集団は、海外でも話題に。子供たちにはNHK教育「からだであそぼ」の振付でお馴染み。最近、バンドとしてもデビュー。

近藤良平

昔話には、視覚、匂い、擬音がいっぱいある。だから、自然に絵が浮かんでくるんです。

「絵本がかなり好きですね。子供の時から、視覚に訴えてくるものが好きなんですよ。オオカミが出てきたりする話で、絵がいいのがね」

近藤良平さんは、0歳から12歳まで父親の仕事の関係で南米に住んでいた。その頃、一番好きな絵本だったのが、『はなのすきなうし』。闘牛が主人公というのが、いかにも南米らしいところ。

「メキシコの話なんですけどね。花が好きな心優しい牛なんです。それが獰猛な牛と勘違いされて、闘牛場に連れられて行くという話なんです。でも全然闘わないから、最後は牧場に戻って幸せに暮らすんですけど」

当時、近藤さんが読んでいたのはスペイン語版だったが、日本に住むようになってから、改めて日本語版を入手。それは今も大切に手元にあるという。

「まあ、バイブルみたいなものなんです。本人さえ気づいていなくても、世の中にはいろいろなやつがいる。それでいいんだ、みたいな、ね」

現在、3歳の娘がいる近藤さん。娘にこの話を読み聞かせてあげる日も遠くなさそうだ。

「今も、いろんな話をつくって、絵も描いたりして、娘に聞かせてるんですよ。そうやって、自分で絵本をつくるのもいいなあ」

「日本昔ばなしのダンス」のために、近藤さんは最近になって、改めて日本の昔話をたくさん読んだ。

「視覚、匂い、擬音……文の中にいっぱいあるじゃないですか。だから、絵本みたいに絵がいっぱいなくても、自然と絵が見えてくるんだよね。だからすごく面白い。それに比べて、今のお話ってそれほどでもない。教訓につながってたりするけれど、決して頭ごなしに『それはいけない』とはやらない。チラッと毒も入ってたりするし。そういうところがホッとするし、大人も十分楽しめる」

そんな昔話に刺激を受け、どんどん創作意欲が沸いている様子。

「だってねえ、頭に柿の木が生えてきちゃう昔話もあるんですよ。そんなあり得ないことが、当たり前のように話になっちゃう。ほんと、侮れないですよ。ある意味、昔話って、前衛ですよ」

学生服が集団で踊りまくり、人形劇や映像を使って、今までダンスを観なかった観客を魅了してきたコンドルズ。それとは、また違った世界観が展開されそうだ。

伊藤千枝

ワープ感があったり、変幻自在な話が好き。それは昔から変わらないなあ。

どこかほんわかとした、ファンタジックな作風で人気の珍しいキノコ舞踊団。そのカンパニーを率いる伊藤千枝さんだけに、絵本や童話にまつわる話はたくさんありそうだ。

「両親に聞くと、絵本とかたくさん持っていたようですよ。それで、お気に入りの本を大きい紙袋に入れて、ひきずりながら持ち歩いていたんだそうです。寝るときもいつもそばに置いて」

一人っ子だったので、小さい頃は絵本が大切な友達だった。ひっぱると動く仕掛けのあるディスニーの絵本や、いわさきちひろの『絵のない絵本』などが大のお気に入り。

「特にね、『絵のない絵本』は絵が大好きで。ストーリーは覚えていなくても、絵は覚えていて、絵本を開くと、今でも子供の頃、読んでいた雰囲気まで思い出すんです。

幼稚園の頃に買ってもらったのは、もう切れちゃってないページもあるので、大人になってから、もう一冊買ったほどです」

昔から、自分でも絵を描きながらお話をつくったり、自分の声が聞こえるのが面白くて、ラジカセに即興でミュージカルを吹き込んだりしていたという伊藤さん。

「舞台としては、今のこの場所より、ワープ感があるほうが好きですね。宇宙の話とか。変幻自在なバーババパパや、打ち出の小槌で小さくなるエピソードなど、変化のある話が好き。それは今も変わりませんね。日常が基本なんだけど、そこからちょっとずれるというか。ドラえもんで育っちゃったからかな」

そう言われれば、今回、「日本昔ばなしのダンス」の演目として選んだ「へっこきよめ」も、まさに日常の中の爆発。普通のお嫁さんながら、暴風並みのオナラをするものだから、騒動になるというお話だ。

「もう、タイトルだけでぐっと惹き付けられちゃいましたよ。『へっ、へっこき?』って」

おならをできるだけリアルに表現するには、どうしたらよいのか。早くも頭を悩ませる日々だ。

「最近は、珍しいキノコ舞踊団の昔からの友人やファンも、子供連れが多くなって、通常の公演でも子供は多いんです。子供が本番中に大きな声で『あれ、なにー?』とか叫んでも、全然いやじゃない。子供がいるから劇場に行けない、っていう固定概念を崩して行きたいですね」

©Ayako Nagaoka

伊藤千枝（いとうちえ）
東京都出身。大学在学中に、女性だけのダンスカンパニー「珍しいキノコ舞踊団」を結成。全作品の演出、振付、構成を担当。映画、ミュージックビデオ、演劇、CMへの振付、出演などでも活躍。2003年4月～2004年2月、NHK教育『ドレミノテレビ』にて振付を担当。

日本昔ばなしにダンスで挑戦《親子で鑑賞して楽しみ、そして考えるプログラム》

「日本昔ばなしのダンス」

近藤良平／伊藤千枝

日本の昔ばなしをダンスで綴るシリーズ第1弾。「コンドルズ」を率いる振付家／ダンサーの近藤良平、「珍しいキノコ舞踊団」の振付家／ダンサーの伊藤千枝という個性では群を抜く2人が、それぞれ、お母さんも子供も知っている日本昔話にダンスで取り組むという注目作。親子が一緒に楽しみ、見た作品について親子で話し合う機会にしませんか。

【日時】10月7日（土） 開演 14:00／17:00
8日（日） 開演 14:00／17:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場　大稽古場

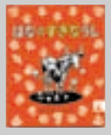
【演目】『ねずみのすもう』
【振付】近藤良平
【出演】鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎

【演目】『へっこきよめ』
【振付】伊藤千枝
【出演】山田郷美、篠崎芽美

【技術監督／音響】山海隆弘（財団法人埼玉県芸術文化振興財団）
【照明】岩品武顕（財団法人埼玉県芸術文化振興財団）
【舞台監督】平井 徹（財団法人埼玉県芸術文化振興財団）

全席自由（税込）
大人（高校生以上）2,000円　子供（3才以上中学生以下）1,000円
【発売日】メンバーズ 7月22日（土）　一般 7月29日（土）

近藤良平さんのお勧め図書



近藤良平さんが「バイブル」とするメキシコの童話。牧歌的な絵柄と平和なお話で、世界中の子供たちに親しまれている。大人にも心休まるひとときを与えてくれる。

『はなのすきなうし』
マンロー・リーフ他著　岩波こどもの本　672円

ロシアに古くから伝わるお話。ねずみやかえる、きつねが、ちいさなおうちに一緒に住み始めるが……。飛び出す絵本仕立てで3歳くらいから楽しめそう。

『ちいさなおうち』
ミハイル・ブラートフ再話　新読書社　1,150円

自分の足りない部分を求め、"自分のかけら"を探しに放浪する物語。最後に自分にぴったりのかけらに出会うが……。'70～'80年代の若者のバイブル的存在。

『ぼくを探しに』
シェル・シルヴァスタイン著　講談社　1,575円

ドイツの寄宿学校を舞台に、少年たちの日常に起こる些細な出来事や騒動を生き生きと描いた傑作。2003年には映画化もされ、日本でもスマッシュ・ヒットを記録した。

『飛ぶ教室』
エーリッヒ・ケストナー著　講談社 青い鳥文庫　704円

その昔、荒れ地であった南仏・プロヴァンスに、一粒一粒種を植え、木が生い茂る楽園にした名もなき老人を描いたベストセラー。F・バックの繊細な絵も秀逸。

『木を植えた男』
ジャン・ジオノ著　あすなろ書房　1,680円

伊藤千枝さんのお勧め図書

海賊と宝探しを競争する冒険譚。
「実は最近読んだのだけど、情景が丹念に描かれていて、映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」にも負けないくらい」

『たから島』
スティーブンソン著　ポプラ社　840円

永遠の子供、ピーター・パンが誘う夢と冒険の物語。何度もアニメや映画になっている名作。
「空を飛んだり、妖精が出てきたり、とにかく楽しい」

『ピーター・パン』
J.M.バリ著　岩波少年文庫　798円

誰もが一度は手にする童話作家、アンデルセンの代表作。
「とにかく、この絵が好きで好きで。今読むと悲しい話が多いのですが、それも絵と合っている」

『絵のない絵本』
アンデルセン著　1,200円

小さな王子の奇想天外な物語は、フランス児童文学傑作。
「絵がいいし、冒頭で、帽子かと思ったら、ヘビの中にゾウが入っていた!というところも好き」

『星の王子さま』
サン=テグジュペリ著　岩波書店　1,050円

アニメにもなり、世界中の子供たちに愛されているキャラクター。
「バーババパパたちは何にでも変身できる。その変幻自在さがなんといっても魅力」

『おばけのバーババパパ』
アネット=チゾン著 偕成社　1,050円

イラスト：長岡綾子　取材・文：鴨澤章子